

神戸大学 鈴木千賀 講演

タイトル Red Tide and Green Tide を生物資源利用の観点から考える

1972年に瀬戸内海で発生した *Chattonella* 属赤潮による漁業被害を契機に、徳島、香川両県の漁民 114 人が兵庫県や播磨灘臨海部の企業数十社を提訴した。これは 1975 年の「赤潮訴訟」に発展した。赤潮の発生は海洋の中でもとりわけ沿岸域において顕著な傾向にあり、政策的な面から言えば沿岸域における環境・生態系の保全の強化とともに、それらを補完する上での適切かつ持続的な生物資源利用の推進が求められる。水質規制を始めとする人為的な努力によって我々は赤潮の発生による被害に歯止めをかける必要がある (Chika Suzuki 2015 和訳)。アオサなどの大型藻類の異常増殖についても然りである。

いや、しかし、通常の生物では考えられないスピードで異常増殖するこれら藻類を「生物資源」としてとらえ直し、我々は利用出来ないだろうか？ そう言った観点からの講座である。

1)藻類 VS ヒト

2) Red Tide とは？

3) Red Tide : 増殖の特徴

4) Green Tide とは？

5) Green Tide : 処理費用 2000 万円

6)海洋環境政策の面からの藻類対策

7) Red Tide and Green Tide を有用生物資源に変える

参考文献)

Chika Suzuki, 「Environmental improvement and policy -The scientific inspection of three major enclosed coastal seas in Japan-」,SUISAN SHA, pp1-130, 2015 ISBN978-4-915273-75-9 2500 円+税 ご入用の方は講師までお問い合わせ下さい。